

《安全対策の充実を図り、より一層安心・信頼いただける発電所を目指してまいります》



地域の皆さまにおかれましては、日ごろより女川原子力発電所の運営にご理解とご支援をいただき、心より感謝申し上げます。
女川原子力発電所では、地震・津波や重大事故への対応策として最新知見を踏まえながら、設備工事などのハード対策および教育・訓練といったソフト対策を進めております。
地域の皆さまに安心そして信頼いただけるよう、本年も、さらなる安全性の向上に向け万全を期すとともに、より一層、分かりやすく、丁寧な情報発信、対話活動に取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

平成28年1月 女川原子力発電所 所長 八重樫 武良

《発電所員より～新年の抱負～》



保全部タービングループ
齊藤靖広(青森県出身)

女川原子力発電所では、津波対策として海拔約29mの防潮堤や、原子炉を冷却するための水源として活用する淡水貯水槽の設置など、協力企業の仲間と共に安全対策工事に取り組んでおります。

私は、万が一の重大事故時に発電所の非常用電源をバックアップするガスタービン発電設備の設置工事を担当しております。昨年12月には、発電機の燃料を貯蔵する大型の軽油タンクを海上輸送し、発電所へ設置する作業などを実施しました。

地域の復興そして発展に向けて、今、私にできること、それは

女川原子力発電所の安全性の維持・向上以外にありません。

地域の皆さまに信頼いただけるよう、今年も「真心」を込めて日々の仕事に一生懸命取り組んでいきたいと思っております。



大型軽油タンク設置工事の様子



《「図画コンクール」入賞作品決定》 ～入賞された皆さまおめでとうございます～

女川原子力発電所では、未来を担う子どもたちの「想像力」と「考える力」をはぐくみ、個性や才能を伸ばすお手伝いをさせていただきたいという思いから、毎年、小学生以下の児童の皆さんを対象とした「東北電力図画コンクール」を開催しております。

14回目となる今回は、過去最高となる5,250点もの作品をお寄せいただきました。甲乙つけがたい力作の中から、審査の結果、最優秀賞1点および優秀賞7点を含む37点の入賞作品が決定し、昨年12月6日に表彰式を行いました。

なお、一次審査を通過した200点の作品は、1月30日～2月7日には石ノ森萬画館、2月20日～28日にはイオンモール石巻に展示いたします。お誘い合わせの上、ぜひご覧ください。たくさんのご応募ありがとうございました。



※2月号では、最優秀賞および優秀賞作品を特集でご紹介いたします

《1号機所内電源の停電発生の原因と再発防止対策について》

女川原子力発電所1号機において、平成27年9月29日から30日にかけて、所内電源が二度にわたって停電いたしました。地域の皆さまには大変ご心配をお掛けし、あらためて心よりお詫び申し上げます。

このたび、原因分析を踏まえた再発防止対策を取りまとめました。今後、このような事象を発生させることがないように、再発防止対策を確実に実行し、安全確保に万全を期してまいります。

◆「1号機所内電源停電」の概要

275kV母線保護装置の更新工事において保護装置の確認試験を実施していたところ、平成27年9月29日、1号機の所内電源に停電が発生し、非常用ディーゼル発電機が自動起動する事象が発生しました。これにより1号機使用済燃料プールを冷却するポンプが停止しましたが、非常用電源復旧後、再起動しました。また、その後の復旧過程において、再度停電が発生しました。

◆原因

しゃ断器の投入操作にあたり、別のしゃ断器を動作させないために作業前に講じる電氣的な処置（以下、「アイソレ*」という。）が不足していた。

[直接原因] アイソレの一部について作業担当者による回路図面の見誤りがあった。

[組織要因] アイソレに関するルールが不明確だった。また、今回のような停電の復旧作業など、計画外作業の手順の作成過程において、役割分担・責任者を明確にした体制がとられていなかった。

◆再発防止対策

・既存ルールの改善

⇒アイソレの検討過程において、アイソレの確認を確実にを行うため、回路図面にマーキングするルールを明確にする など

・アイソレの検討体制の明確化

⇒計画外作業の手順書を検討する場合、アイソレや手順書の内容を確認する役割・責任分担をルールで明確にする。

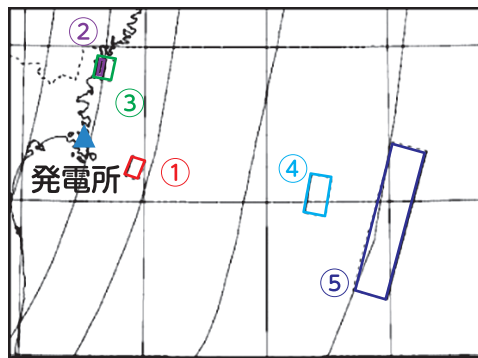
・教育の実施

⇒所員に対して、アイソレの検討・管理に関するルールを徹底させるための実践的な教育を継続的に実施する。

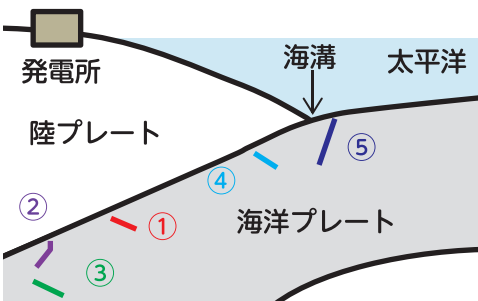
*作業による他系統・設備への影響・波及を防止するために作業前に講じる電氣的な処置。本文では、隔離などを意味するアイソレーションの略語として使用。

新規制基準適合性審査状況のお知らせ(12月末現在、審査会合66回開催)

《基準地震動の策定(海洋プレート内地震)について》



断層モデルの位置(平面)



断層モデルの位置(断面)

2号機の適合性審査では、基準地震動の策定のうち、「海洋プレート内地震」について審議されています。

海洋プレート内地震としては、2011年4月7日に発生した宮城県沖の地震と同タイプの地震(4.7型地震)が女川の敷地に最も影響を与えると評価しており、その他の様々なタイプの海洋プレート内地震の評価結果も示しながら、基準地震動 S_s-2 (1,000ガル)を規定している海洋プレート内地震の評価の妥当性を説明しました。

本審査項目については、4.7型地震の評価にあたって、より厳しい条件での評価(不確かさの考慮*)などを求められたことから、今後の審査において説明していきます。

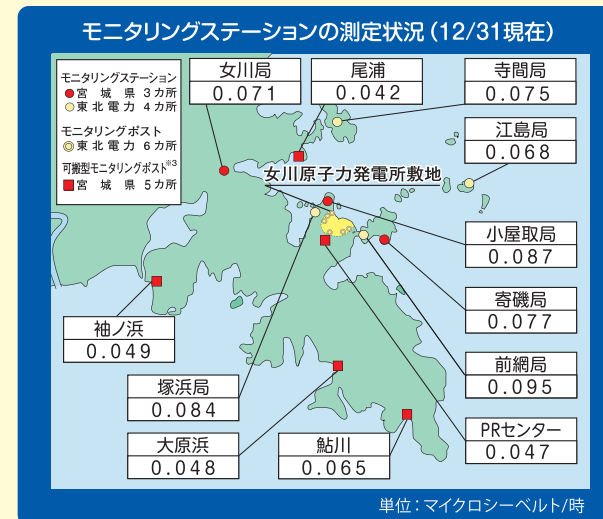
*不確かさの考慮:より厳しい条件などで評価を行う観点から、科学的に合理性のある範囲で、様々な数値シミュレーションを行うこと

No.	評価した海洋プレート内地震のタイプ
①	上面の地震 4.7型地震
②	上面の地震 2003年型地震
③	下面の地震
④	沖合いのやや浅い地震
⑤	アウターライズの地震(海溝外側の地震)

審査会合の詳細は当社ホームページをご覧ください。 [東北電力 女川審査会合](#) [検索](#)

《女川原子力発電所周辺の放射線量は安定しています》

女川原子力発電所周辺の放射線はモニタリングポスト*1やモニタリングステーション*2で測定・監視しており、その測定値は宮城県および当社ホームページで公開しています。発電所敷地内に設置してあるモニタリングポストの現在の測定値は、最大で0.060マイクロシーベルト/時程度で安定しており、健康に影響を与えるレベルではありません。



発生日	測定値
〈東北地方太平洋沖地震発生日〉	平成23年3月11日 0.027~0.064
〈地震発生後最大値〉	平成23年3月13日 1.8~21*4
〈地震発生以降毎年度(4/1)の値と至近値〉	平成24年4月1日 0.063~0.098
	平成25年4月1日 0.055~0.076
	平成26年4月1日 0.046~0.065
	平成27年12月1日 0.041~0.060
	平成27年12月31日 0.042~0.060

単位:マイクロシーベルト/時

*1 モニタリングポストは発電所敷地周辺の環境放射線を測定しています。女川原子力発電所の敷地境界には6基のモニタリングポストが設置されており、その最小値と最大値について、東北地方太平洋沖地震の発生日の値、それ以降で最大値が測定された日(平成23年3月13日)の値、毎年度(4月1日)の値、至近の値を掲載しています。

*2 モニタリングステーションは環境放射線に加えて気象データを測定しています。

*3 宮城県では、震災により測定不能となっているモニタリングステーションの代替として、可搬型モニタリングポストによる測定を行っています。

*4 東京電力福島第一原子力発電所からの放射性物質の放出に伴い測定されたもので、測定された時間は約10分間です。